



# 雲林寺報第32号

# 慈恩



令和4年1月発行

## おかげさま

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、檀信徒皆様に於かれましては、益々ご清栄にて越年のことと大慶至極に存じます。

### “ 煩惱は百八減って今朝の春 ”

の句のように天地が新しい光に輝く二〇二二となりました。当山雲林寺も開山以来四六三年目の年、檀信徒皆様のいつ変わらぬご法愛により、おかげさまにて新年を迎えることができました。

「おかげさま」まことに融通のきくよい響をもった言葉です。ご先祖様のおかげ、親のおかげ、国のおかげ、世の中のおかげ、天地自然のおかげを感謝して、その「おかげさま」で生かされて自分は、せめてその「おかげさま」に対して日々自分のできることでお酬いしてゆきたいと考えるようになりたいものです。

「恩を知り恩に報いる」心呼びさまし、生かされていることがやがて他の生きとし生けるものを生かすことになり、お互いに生かし合っている姿はほとけの世界に通じるのではないのでしょうか。

そしてそこから和やかな家庭や平和で明るい社会が生まれてくるものと思えます。この一年、生活の中に「おかげさま」の心を育てていきましょう。

本年も元朝修正祈禱会において、世界の平和とわが国の安穩、仏法の興隆、当山の発展を祈念するとともに檀信徒各位の一層のご多幸とご健勝を至心に祈願いたします。

終わりに皆様方の福寿海無量を切に念じ申し上げ年頭のご挨拶といたします。

合掌

## 護持会だより

本年も宜しくお願い致します。昨年末、世話人様の交代がありましたことをご報告いたします。

【横壁地区】(旧)金子茂雄様(新)萩原國男様  
【大津地区】(旧)吉澤功様(新)湯本完司様  
金子茂雄様、吉澤功様には長きに渡り、ご尽力賜り感謝申し上げます。尚、萩原國男様、湯本完司様には改めて次号で

### 総代

- 会長 櫻井芳樹
- 副会長 黒岩元
- 書記 佐藤良平
- 会計 宮崎透
- 監事 櫻井輝久
- 相談役 田村守

### 世話人

- 長野原 湯本定由
- 大津 岩木夏雄
- 羽根尾 割田伸男
- 与喜屋 長谷川浩一
- 林 浅見良雄
- 萩原富夫 湯本敏雄
- 小林寛 櫻井敏雄
- 萩原國男 山口義秋
- 豊田清男 黒岩清次
- 青木博文 小林柳一
- 神戸久利 萩原富夫
- 清水忠雄 小林寛
- 宮澤昭次 萩原國男
- 岩田紀重
- 小林一雄
- 宮田満
- 齋藤光善
- 山崎敷男
- 唐沢明雄
- 宮崎雅夫
- 塩野英介
- 小林喜一郎
- 市村真
- 湯本完司
- 橋爪満男
- 篠原憲一

### 感謝録

当山行事の際、安全ベスト四着 橋詰隆夫様 ありがとうございます。

# 主な活動のご報告（令和三年後半）



① ② 八月十四日は大施食会でした。昨年の大施食会は一昨年同様、コロナ禍の中、判断の難しいものでしたが、大雨で足元の悪い中多くの方々が御来山下さり、無事円成いたしました。堂内に入れる人数が限られていた中、外でお待ち頂いた皆様方には大変ご迷惑をおかけしました。

③ 九月二十一日、境内で長野原町戦没者追悼式を執り行いました。境内にある忠霊塔は第二次世界大戦の長野原町の戦没者の霊を顕彰しています。

④ 十月十四日、長野原町北軽井沢大屋原地区の群馬県満蒙拓魂之塔供養が感染症対策のため、中止となりましたので内献にてお焼香をいたしました。

⑤ 群馬県防災ヘリコプター「はるな」が群馬県中之条町の山中に墜落し、搭乗していた九人全員が死亡した事故から三年が過ぎました。十一月二日、吾妻仏教会（吾妻郡内の仏教寺院）で事故現場に近い渋峠に建立された慰霊碑の前で法要を厳修致しました。

⑥ 十一月五日、大津老人会の皆様が開山されました。当山の開基（寺院者）である海野長門守幸光のお位牌についてお話しをさせて頂きました。

⑦ 十一月三十日、檀家様の地鎮式がございました。地鎮祭（地鎮式）は神主さんが行うという感覚が強いのが一般的なようです。

仏式による地鎮式はその土地に建物を請う際に、土地の神様にお許しを請うる際に、さまざまな人々（有縁無縁の人々）のお陰をもつて、ようやく建築の運びとなったことを仏様に感謝するとともに、責任をもって工事で取り進むことを仏前に誓う儀式です。

# 梅花流たより

今年度開催予定であった全国大会が新型コロナウイルスの影響により中止となったことをご承知のとおりですが、令和四年度に迎える梅花創立七〇周年記念奉詠大会もまた中止が決まりました。記念表彰につきましてもは実施することです。

各講入講在籍年数により表彰を受けることとなります。雲林寺でも大多数の講員さんが対象になりますことは大変名誉なことです。

三月には恒例となっております第二十八回梅花研修会が伊香保ホテル天坊に於て開催されることになりました。少しずつではあります、平常をとりもどしつつあるようです。

轟美代子



8月14日大施食会

# 令和四年年間予定

一月二日の新年祈祷会は総代、世話人の皆様にお集まり頂き、開催させて頂きました。また、一月四日からの檀家様各家への年頭のご挨拶も、今のところ何う予定ですので、ご承知の程お願い申し上げます。

二月三日の節分会に関しては、祈祷のみ行い、本堂内での豆まき会は中止となりましたのでご報告致します。

また、三月以降の行事に関しては直接お寺にお問い合わせ下さい。何とぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

※未定の行事になります。

- 一月二日 新年祈祷会
- 一月四日 年頭の御挨拶回り
- 二月三日 節分会（午後二時）
- 四月三日 大般若会（午前十時半）※
- 六月中旬 護持会総会※
- 八月五日 天明物故者供養※
- 八月十四日 大施食会（午前十時半）※
- 十月中 第十一回ゴルフコンペ※
- 十二月三十一日 除夜の鐘

# 六曜と迷信について

「六曜」は古代中国の思想が日本に伝わり江戸時代に定着したもので、元来は時間を区切る世俗的指標として、六日ごとのサイクルを定めたものです。それが逆に日にちの吉凶として、人々の行動や生活を左右し、縛る方向へと定着していった側面もあります。

たとえば、「仏滅」の「仏」はもともと「物」という字だったのですが、明治時代、曆業者が「仏」の字を当てて広めたことにより、仏教と関係のあるように思われるようになりまし。

また、結婚式等で吉日とされる「大安」は江戸時代には「泰安」、「友引」は「午前」と「午後」の間で「ひきわけ」（共引）と言われていたようですが、元来仏教の教えとは全く関係がありません。

「日吉凶無し」「日吉好日」であり、尊くない日は一日もありません。

私たちは、正しい教えにもとづいた見方や考え方を持って迷信や俗信、悪しき「習わし」や「しきたり」を断じる意識を持つことが肝心です。

そして、偏見や迷信がもたらす、あらゆる差別の解消に取り組んで参りましょう。



# 境内整備と考えております

約百年にわたり境内地にあった役場庁舎が移転し早二年が過ぎました。未だ公民館がございいますが、こちらが解体になった際には、境内全体を整備していく予定です。

当山と同様、境内が傾斜地となり、地形を生かし美しく趣のある寺院を見て参りました。参道はもちろんのこと、当山もこのように傾斜地を生かし、白根石と植物が綺麗に調和した、美しい境内を造って参りたいと思っております。



# 大節分会

二月三日 午後二時

一般祈祷 二千元  
(祈祷、福豆、寿菓、お札、お守り)

節分講 五百円  
(福豆、寿菓、お札をお配り致します)

厄年の「厄」とは、災厄の「厄」ではなく、役員「役」、つまり共同体の中で一定の役割を果たすという意味での「厄」年だそう。

厄年が災いの年になることがあるのは、年齢に応じて与えられた役割を果たすことができない、つまりさまざま課題を解決することができず、それに振り回されてしまふからだと、この考え方によるよう。

性別	本厄年齢			
	前厄	本厄	後厄	本厄
男性	4才	令和 2年生	平成 31年 令和 元年	平成 30年生
	25才	平成 11年生	平成 10年生	平成 9年生
	42才	昭和 57年生	昭和 56年生	昭和 55年生
	61才	昭和 38年生	昭和 37年生	昭和 36年生
	女性	4才	令和 2年生	平成 31年 令和 元年
19才		平成 17年生	平成 16年生	平成 15年生
33才		平成 3年生	平成 2年生	昭和 64年 平成 元年
37才		昭和 62年生	昭和 61年生	昭和 60年生
61才		昭和 38年生	昭和 37年生	昭和 36年生

# 仏前結婚式のすすめ

仏前結婚式というものがあることをご存知でしょうか？  
読んで字のごとく、仏様の御前で新郎新婦が将来の固い契りを、仏様、そしてご先祖に誓い合う婚礼の儀式です。

一般に、結婚式といえば教会で挙げるか、あるいは神前で挙げるものが結婚式であると思われているところがあり、仏前結婚式は珍しく特殊なものと考えられています。

しかし、式のもつ意義や本質を考えれば決して特殊なものではありません。この仏前結婚式によつて結ばれる二人は、よほど仏縁が豊かであるか、あるいは本人たちが真に仏教信仰を持っているということなのです。単に習慣に従って行われるというのではなく、深い帰依の心から式に臨む、意義深いものなのです。

それは決して偶然ではなく、我々人間には思いも及ばない大きな力からいって、深い縁の力によるものなのです。

結婚話が整うことを、縁談が整うといいますが。これは仏教の「因縁」という言葉からきています。仏様に誓いをたてる仏前結婚式は、このような仏教的結婚観、

“お二人は以前から結婚し一緒にいることを縁づけられていて、その縁が熟してここにめでたく結ばれた”

という立場にたつて行われる式なのです。

新郎新婦の身心の中には、両親はもちろんのこと、遠いご先祖様からの温かく美しい心を受け継いでいることに改めて想いをいたし、輝かしい新生活に希望と覚悟をもって、仏様の御前で固く誓い合う姿に、仏前結婚式の意味があるのです。

仏前結婚式はこのように私たち日本人のもっとも自然な心情から生まれた、誠に尊い儀式です。

雲林寺では仏前結婚式を挙げたいという方を受け入れ、お二人の新たな門出をお手伝いさせて頂きます。ご質問などお問い合わせて下さい。



